

感覚器・理学診療科

眼科

病棟 西病棟 12F / 東病棟 12F / 西病棟 16F

外来 外来診療棟A 4F 連絡先 022-717-7757 (外来)

ホームページ <http://www.oph.med.tohoku.ac.jp/>



科長
中澤 徹 教授

主な対象疾患

- 緑内障疾患 ●網膜疾患 ●ぶどう膜炎 ●角膜疾患 ●ドライアイ ●涙道疾患 ●神経眼科疾患 ●眼腫瘍 ●ロービジョン
- 小児眼科疾患

診療内容

各疾患別の専門外来を設け、専門の医師が外来・病棟で一貫して診療にあたっています。最近の眼科学は進歩が著しく、最新の検査機器が診断に不可欠です。当科では充実した最新の検査機器を設備しており、的確な診断が可能となっています(下図参照)。治療に関しても、常に最新の医療情報を検討し、各専門グループで新しい治療法を積極的に取り入れています。このように常にアップデートされた診断と治療をもって、患者さん本位の理想的な医療を提供したいと考えています。

緑内障外来: 早期診断を目指したOCTによる神経線維層厚の測定、非侵襲的に眼底血流を測定できるレーザースペックルフローグラフィやOCTアンジオグラフィを用いた血流解析。遺伝子診断に向けた緑内障原因遺伝子の探索と臨床像の比較。失明につながる進行性緑内障などの網膜視神経疾患の病態究明と神経保護治療を行っています。

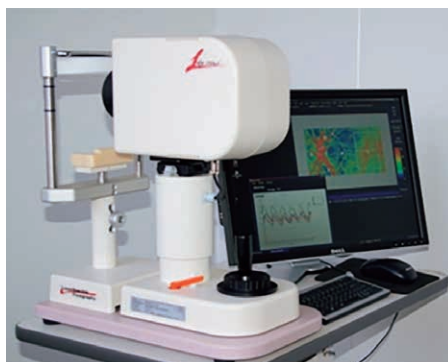
網膜・ぶどう膜外来: 難治性網膜疾患の小切開硝子体手術、加齢黄斑変性症・血管新生網膜症に対する抗VEGF製剤療法、前房水・硝子体のサイトカイン・微生物遺伝子解析による難治性ぶどう膜炎の診断と治療、遺伝性網膜変性疾患の遺伝子診断を行っています。

角膜・ドライアイ外来: 最新の角膜形状解析装置を用いた、角膜疾患の診断と角膜内皮移植等の角膜パーツ移植。最新の理論に基づいたドライアイ診断と、涙点プラグなどによる外科的治療を行っています。

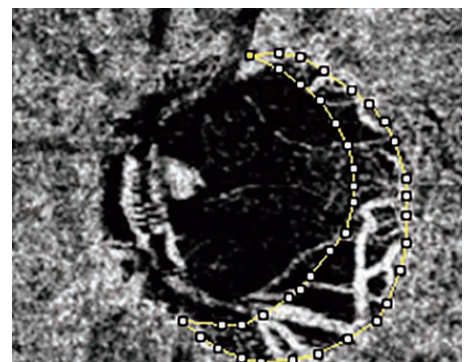
神経・斜視外来: 最先端の画像診断装置と遺伝子検索を用いた診断と、神経内科・脳神経外科・耳鼻咽喉・頭頸部外科・形成外科との強力な連携による治療を行っています。



酸化ストレス測定器械



レーザースペックルフローグラフィ



OCTAの画像

診療体制

緑内障メディカル外来は月～金の毎日、緑内障サージカル外来は火曜に行っております。

網膜ぶどう膜外来は主に月曜と金曜に行っておりますが、網膜疾患のうち糖尿病網膜症については水曜、ぶどう膜炎については木曜、先天網膜疾患・黄斑疾患については金曜に別途外来を設けて、より詳細な診断・治療を行っています。神経・斜視外来は水曜に行っておりますが、眼腫瘍についても同日診療を行っています。角膜・ドライアイ外来と涙道外来は木曜に診療を行っています。

得意分野

緑内障メディカル外来では十分な眼圧下降を行っても視野進行を呈する症例に対して、血液・尿の酸化ストレス値や皮膚AGE(糖化最終産物)値を測定したり、視神経血流動態を測定したりすることで、眼圧以外の進行因子にどのようなものがあるかについて研究を行っており、生活指導等を通じて治療の一助としております。

網膜ぶどう膜外来では難治性網膜疾患の診断のみならず、25/27ゲージ手術システムを用いた手術も積極的に行っており、全国でもトップクラスの手術件数を誇っております。

角膜ドライアイ外来では角膜パーツ移植を取り入れており、病変部位毎により合併症が少ない手術を行って良好な成績を挙げております。

ご紹介いただく際の留意事項

■新患日は月～金ですが完全予約制になっておりますので、地域医療連携センターにて新患予約をお願いします。希望の日の予約が既にいっぱいの場合でも、緊急性が高いと考えられる場合は当科外来宛てご一報下さい。緑内障サージカル外来には高眼圧で薬物療法が著効しない症例、緑内障メディカル外来には眼圧が十分低いと考えられるにも関わらず視野欠損が進行してくる症例を御紹介頂ければ幸いに存じます。